

## ケース 7.1 ソマリアへの海外送金

ソマリアは、破綻国家の典型である。しかし、海外移住した人々による貴重な海外送金に頼ってかろうじて、破壊を免れた残余のソマリア社会は生き残っている。

長い暴力、社会的混乱、政治不安、国家の破綻から逃れるためソマリア人は越境した。全人口の 6 分の 1 に相当する 100 万人ほどが、国境を越えているが、そのおかげで国民のなかの技能労働者の 80%が海外に住むことになった。ソマリア人たちは、タンザニアとザンビアを結ぶ鉄道の建設現場や、中央アフリカでトラック運転手として働いたり、留学していたり、あるいはケニアのナイロビやナイジェリアのラゴスなどの成功への登竜門となるグローバル大都市に移動している。その上に 100 万人ほどの国内避難民が存在し、39 万 5,000 人のソマリア難民がいると見積もられている (IDMC, 2006)。

ケニアのソマリア人 (16 万 5,900 人) やエチオピアのソマリア人 (15 万 900 人) が大きな注目を浴びているが、エジプト (4,200 人)、イエメン (7 万 8,600 人)、サウジアラビアに避難先を求めて移動したソマリア人たちについてはあまり知られていない (USCRI, 2006)。近年、小さなボートに乗ってイエメンに逃れようとしているソマリア人は増加している。2007 年の最初の 5 カ月間に、少なくとも 8,000 人のソマリア人が避難したと国連は推計している。多くの避難民にとりイエメンでの生活は満足すべきものではないが、故国での生活を考えればイエメンでの生活は人生の再スタートとなるだけでなく、より安定した国家、例えばサウジアラビアへ危険を冒してでも移動する機会を与えてくれる (Shadid, 2007)。

世界各地に住むソマリア人たちは、故国に残っている同胞を忘れはしない。2004 年の海外送金は 7 億 5,000 万米ドルに達しており、家畜の海外輸出から得られる歳入や 1 億 7,400 万米ドルの海外援助 (そのほとんどは、ケニアのナイロビに亡命した破綻国家のソマリア政府にわたってしまう) などをはるかにしのぐものとなっている。ある推計によれば、各世帯の収入の 23%が海外送金によるものとみられているが、国連の調査によると回答者の 35%が 2 人から 8 人の海外移住者から別々に、かつ同時に海外送金を受け取っていることになる。

送金は銀行を通してではなく、ハワラ制度 (hawliaad) と呼ばれる私的送金サービス代理店網を通して行われている。海外移住者が、現地にある送金代理店に金を支払うと、その代理店はソマリアの代理店に、家族への支払いを依頼する。ソマリアの代理店は依頼に基づいて家族に支払うという制度である。一般的に送金代理店は、ソマリアの各コミュニティを信頼して業務を行うが、多くの家族が生き残るために海外送金に依存しているので、各コミュニティも盗難防止に努めている。各個人は、かなりの額のお金を送金代理店に預けるのが普通である。それは、以前からあったソマリアの銀行が信用できなくなっただけでなく、倒産しているものも多いからである。送金代理業は多くのソマリア人にとって未来のための銀行となりつつある。

## ケース 7.1 ソマリアへの海外送金

アメリカ政府は、9.11 同時多発テロ攻撃事件以前に、その当時のソマリアで最大の送金代理会社「アルバラカート (al-Barakaat)」に、当初、オサマ・ビンラディンが融資していたことから、アルカイダや関連のイスラーム・テロ組織 (AIAI) などに資金援助している疑いがあるとして同社を告発した。同社は 2001 年 11 月に閉鎖され、さらに捜索を受けたが、FBI はアメリカ政府の疑いを証明する証拠はみつからなかったと結論を下した (The 9/11 Commission, 2004)。同社の閉鎖は、しかしながら、多くのソマリア人の生活に否定的影響を与えた。テロ捜査、疑惑、規制強化などに加えて、送金代理会社ウェスタン・ユニオンなどが請求する海外送金手数料が高騰したことにより、ソマリア人の海外送金は、ますますインフォーマルな送金網に依存することになっていったのである。

こうした移民の海外送金や投資を資本として活用したさまざまなプロジェクトが開始されるとともに、送金代理会社は、ソマリアの各産業に投資を行うようになった。もちろん、長年にわたり海外送金は重要な存在であったが、海外送金に頼っていただけでは、長期的な成長を望むことは不可能である (Maimbo, 2006)。しかし、海外からの送金と送金手数料がソマリアとソマリアの国民の多くの生計を支えていることに変わりはない (Ahmed, 2000; Lindley, 2005, 2007)。

### 【参照文献】

- Ahmed, I. I. (2000) "Remittances and Their Economic Impact in Post-war Somaliland." *Disasters*, Vol. 24, Issue 4 (December), pp. 380-389.
- IDMC (2006) "Internally displaced persons (IDPs) in Somalia." <http://www.internal-displacement.org>
- Lindley, A. (2005) "Somalia Country Study—a part of the report on Informal Remittance Systems in Africa, Caribbean, and Pacific (ACP) Counties." Centre on Migration, Policy, and Society. (15 January).
- Lindley, A. (2007) *The early morning phonecall: remittances from a refugee diaspora perspective*, Working Paper 07-47. (Oxford: COMPAS).
- Maimbo, S. M. (ed). (2006) "Remittances and Economic Development in Somalia." *Social Development Papers: Conflict Prevention and Reconstruction*, Paper No. 38 November. (Washington, DC: The World Bank), 64 pp.
- Shadid, A. (2007) "A Desperate Voyage of Hope and Peril," *The Washington Post Foreign Service*, 31 May. <http://www.washingtonpost.com/wp-dyn/content/article/2007/05/30AR2007053002609.html>
- The 9/11 Commission Report (2004) *National Commission on Terrorist Attacks Upon the United States* "Chapter 5: Terrorist Financing—AL-Barakaat Case Study." (Washington, DC: W. W. Norton and Company) pp. 67-86.
- USCRI (2006) *World Refugee Report 2006*. (Washington, DC: US Committee for

## ケース 7.1 ソマリアへの海外送金

Refugees and Immigrants).